

県立古河中等教育学校【総合的な探究の時間計画】（令和 8 年度）

学校の教育目標

<p>豊かな心（寛容の精神、謙虚さ、思いやり）と確かな学力を兼ね備えた次代のリーダーの育成</p> <p>(1) 6年間の継続的・計画的な教育活動を通じて、一人一人が高い志をもち、その実現に向けて知性と人間性を育む。</p> <p>(2) 科学教育や国際交流、医学分野等の教育活動を通じて、体験的・探究的な学習活動の展開により、国内外で活躍するための科学的思考力や表現力を培う。</p> <p>(3) 異年齢交流を重視した学校行事や部活動、トップリーダーとの交流、ボランティア活動などを通じて、社会に貢献するリーダーとしての資質を磨く。</p>
--

総合的な探究の時間の評価

目標と育成する資質・能力	学習評価	配慮を必要とする生徒への支援方法
<p>(1) 弛まぬ学ぶ力 主体的態度、協働的態度、より深く学ぶ態度の育成</p> <p>(2) 発信力、論理力 思考力、判断力、表現力の育成</p> <p>(3) 科学的考察力 科学的な見方・考え方の育成</p> <p>(4) 創造力、探究力 言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力の育成</p>	<p>(1) 学び合いに積極的に参加し主体的に活動している。</p> <p>(2) 論理的で筋道立ったレポートや発表ができる。</p> <p>(3) 科学的プログラムの体験や作品作成に積極的に臨んでいる。</p> <p>(4) 生徒自身で課題を設定し解決している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習上又は生活上の困難を改善・克服するための配慮（個への支援と教育的ニーズへの対応）。 ・生徒の発達の段階に応じた柔軟で、臨機応変な対応。 ・面談やアンケートにより生徒理解に努め、子供たちの実態に即した指導。 ・関係機関や外部専門家等との連携、また緊急時の支援体制の整備。

各学年における主な取組内容

学年	主たる探究課題及び学習活動	外部との連携	育成を目指す生徒像
1年 古河中等式探究活動	<p>探究活動：興味・関心のある分野を選び、外部講師による専門的指導・支援を受けた上で、自分の興味関心、地域や社会等の問題解決につながる課題を設定し、研究を進める。</p> <p>・探究課題7:「コース別探究活動」</p> <p>選択分野に関する研究手</p>	<p>企業や外部の専門家と連携し、学術研究の基礎と課題解決力を養う。大学教授等の指導のもとで実践的な研究手法を習得し、仮説検証やデータ分析に基づく論理的な成果発信を行う。あわせて、社会生活における人間関係の</p>	<p>(1) 問題を発見する力 当たり前の日常や社会のニュースになぜ？と問いかけ、まだ誰も気づいていない本質的な問題を見つけ出せる生徒</p> <p>(2) 情報を分析・活用する力 溢れる情報に惑わされず、データを多角的に分析し、課題の背景にある原因を突き止められる生徒</p> <p>(3) 論理的な思考・表現力</p>

様式 1

	法を学んだ上で、生徒一人一人が問題解決につながる課題を設定し、研究を進める。	課題や自己の進路情報を収集・分析し、他者と協働して未来の課題解決に取り組む。	自分の主張を支える確かな根拠を示し、誰にでも筋道が通る形で、言葉や論文として表現できる生徒
2年 古河中等 式探究活 動	探究活動：発展的に個人研究を行い、最良の問題解決の方法、研究論文のまとめ方、発表の仕方を学ぶ。また、進路に関する調査・研究を重ねて最良の解決方法を見いだす。 ・探究課題 8：「個人研究」設定した課題について、発展的に研究を重ね、最後に論文にまとめて発表する。 ・探究課題 9：「大学別研究会、医学進学研究会」大学別研究会、医学進学研究会に分かれて実施する。	外部メンターや専門機関、進路ネットワークと連携し、探究の高度化と進路実現の基盤を築く。データサイエンスの要素を取り入れた実験や統計調査の活用により、仮説を客観的に検証して研究論文を作成し、成果を発信する。	(1) 主体的態度 自ら決めたテーマに責任と誇りを持ち、困難や計画の変更があっても、最後まで粘り強く探究をやり遂げる生徒 (2) 情報活用能力 膨大なデータや先行研究を批判的に読み解き、自分の主張を裏付ける武器として使いこなせる生徒 (3) 言語能力、表現力 適切な言葉選びと論理的な構成で、専門外の人にも自分の研究の価値や面白さを、魅力的に伝えることができる生徒
3年 古河中等 式探究活 動	探究活動：探究課題を設定（進路）し、調査・研究を重ねて最良の解決方法を見いだす。 ・探究課題 10：「大学別研究会、医学進学研究会」大学別研究会、医学進学研究会に分かれて実施する。	これまでに構築した外部機関や大学等のネットワークを活用し、研究の深化と高等教育・社会への円滑な接続を図る。専門家や研究機関の協力を仰ぎながら、既存の知見を統合して高次元な問いへの探究を自律的に推進する。成果を進路実現やキャリアデザインへ直接結びつけ、未来の社会に変革をもたらす資質を完成させる。	(1) 主体的態度 自らの意志で人生の舵を取り、変化の激しい社会の中でも、生涯にわたって学び、挑み続けられる生徒 (2) 情報活用能力 多様な情報や知見を統合し、複雑な社会課題に対して、自分ならではの新しい価値や解決策を生み出せる生徒 (3) 言語能力、表現力 洗練された言葉と表現力を持ち、多様な背景を持つ人々と対話しながら、社会にポジティブな影響を与えられる生徒